

2024年1月17日

## 山名 啓雄 メディア総局長 1月定例記者会見 要旨

### 1. 「令和6年能登半島地震」について

(山名メディア総局長)

元日に発生した「能登半島地震」で亡くなられた方々に心からお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

発生から2週間あまり経ちましたが、NHKでは、メディア総局を始め、本部各部局や各地の放送局が連携して、テレビ、ラジオ、デジタル、国際放送などあらゆるメディアを使って、地震に関する報道に総力を挙げて取り組んでいます。私からは、これまでの対応と今後の予定について説明します。

地震が発生した1月1日の午後4時06分過ぎに、緊急地震速報をテレビとラジオのすべてのチャンネル(103ch含む)でお伝えし、その約20秒後には、総合テレビで「ニュース」を開始しました。4時11分過ぎからは、停波の周知に活用しているBS103チャンネルを含めたすべてのチャンネルで、通常番組を休止して「臨時ニュース」の放送を始めました。津波警報が出てから注意報に変わるまで、全波での放送時間は、およそ9時間半に及びます。

津波警報や大津波警報が発表されたことから、初動では「避難を呼びかける報道」を徹底しました。

その後も、「ニュース」の特設や、定時「ニュース」の時間を拡大するなどして、被害状況や交通情報、現地の気象情報、被災地が求めている支援は何かといった情報を中継など交えながら伝えています。

6日からは、総合テレビの全国放送で「ライフライン情報」を伝える番組も開始しました。医療機関や給水所の状況、ボランティアセンターに関する情報といった、被災地の生活に欠かせない情報をお伝えしています。

また、特に被害の大きい奥能登地域で、インフラが寸断されたことなどから地上波が見られないところがあり、「衛星放送で災害の情報を知りたい」という被災者の方からの声が寄せられました。これを受けて、9日の午後6時から、BS103チャンネルを活用して、金沢放送局の地域向けニュースや全国ニュースの放送を開始しました。

また、「ニュース以外の番組も視聴したい」という声にこたえて、12日からは総合テレビのほぼすべての番組を103チャンネルで視聴できるようにしています。

次に、新たな取り組みとして、15日からはラジオ第1で、『こどもホットソング』という特集番組をスタートしています。元日から長い間、震災報道を見聞きして、不安を感じているお子さんが全国にいらっやると思います。その子どもたちの心が少しでも穏やかになるような曲を選んで、Eテレの人気者たちが届けるという番組で、この番組はしばらく続けたいと考えています。詳しくはお手元の報道資料をご覧ください。

また、現地では、長引く避難所暮らしで、体調を崩す方が数多く出ています。今夜の『クローズアップ現代』や21日の『NHKスペシャル』では、災害関連死をテーマにお伝えすることにしています。『NHKスペシャル』と『クローズアップ現代』については、報道資料を準備しているのでご覧いただければと思います。

当面は、被災地の状況を見ながら、放送枠を決めていくという編成が続くことになると思います。避難の長期化が懸念されるなかで、引き続き、放送とデジタルで被災者の方に必要な情報をお伝えして、公共放送・公共メディアとしての役割を果たしていきたいと考えています。

(中嶋理事)

被災地の取材状況や今回の災害の特徴を踏まえた届け方について説明します。

被災地では、今も不明者の捜索が続き、ライフラインや通信が寸断される中で多くの方々が避難生活を続けていらっしゃいます。余震も続き、冷え込みも厳しく、過酷な環境の中、不安な日々を過ごされている方々に心からお見舞い申し上げます。

地震発生から2週間が過ぎ、被災者の方々が求めているものも刻々と変化していると思います。それに合わせる形で、生活再建の手助けになる情報、電気やガス・通信などのライフラインの復旧状況や仮設住宅の情報などきめ細かく伝えていきます。

ここに来て災害関連死の疑いのある方が増えてきていますが、避難生活が長引く中で、そうした方を1人でも減らすため、災害関連死を防ぐ情報提供に力を入れていきます。

それに皆さん報道機関の方々はご承知の通りですが、今回の取材現場はこれまでになく過酷で危険な環境です。倒壊の恐れがある家屋が数多くあり、土砂災害や積雪に注意が必要です。厳しい環境ではありますが、本部や全国の放送局の様々な部局から職員・スタッフが応援に入り、安全管理を徹底しながら、24時間態勢で取材しています。

今回の地震では、インフラに大きな被害が出てテレビを見られない地域もあることからあらゆるメディアを駆使して情報を届けていますが、私からはデジタルの取り組みを中心に伝えたいです。

まず一つは金沢放送局による総合テレビとラジオの地域向けニュースをネットでも見たり聞いたり出来るようにし、多くの方にご利用頂いています。

また孤立している地域を地図上にわかりやすく示した「孤立情報マップ」や、避難所や給水所などを示した「災害情報マップ」をネットで公開しました。「孤立情報マップ」は県の情報だけでなく NHK 独自の取材情報も加えたところ、被災地に家族がいる視聴者から「NHK の情報で家族が助けられた」などという声も寄せられました。

さらに、SNS 上などで誤情報や偽情報、いわゆるフェイクニュースが数多く出回っていて命にかかわる恐れもあることから、放送やネットを通して、こうした情報を打ち消す報道にも力を入れています。

能登半島地震の報道は今後も長期にわたると思います。放送とデジタルの特性を生かしながら、被災者の方々のために必要な情報をお届けし、「命と暮らしを守る」報道に努めてまいります。

## 2. NHK ラジオ×ニッポン放送 コラボレーションについて

(中嶋理事)

NHKラジオとニッポン放送のコラボレーションについて、ご説明します。

NHKラジオでは、来年2025年にラジオ放送100年を迎えるにあたり、「ラジオ100年プロジェクト」を発足し、NHKのアーカイブスの活用や、民放各局との連携など、様々な取り組みで、ラジオを盛り上げていこうと考えています。

そこで今回は、今年ラジオ放送70年を迎えるニッポン放送と連携し、1月29日と30日の2日間、ニッポン放送の「オールナイトニッポン MUSIC10」と、NHK「ラジオ深夜便」で、互いのパーソナリティ・アンカーが、互いの番組に出演しあい、その模様を、互いの局で同時放送いたします。

能登半島地震を受けて、被災された方々に少しでも元気をお届けする内容についても検討しています。

(担当者)

1月29日(月)は、午後10時から始まるニッポン放送の森山良子さんがパーソナリティを務める「オールナイトニッポン MUSIC10」に、「ラジオ深夜便」の徳田章アンカー、須磨佳津江アンカーがお邪魔します。

そして、11時5分からは、「ラジオ深夜便」が始まるので、ここからは、互いのスタジオを繋ぎながらの同時放送になります。「ラジオ深夜便」のスタジオには、迎康子アンカー、「オールナイトニッポン MUSIC10」のスタジオは森山良子さんです。深夜便のゲストには、深夜便の準レギュラーでもある、日本文学研究者のロバート・キャンベルさんをお迎えします。

「オールナイトニッポン MUSIC10」が終了した後、午前0時台は、「ラジオ深夜便」のみの放送となりますが、引き続き、森山良子さんにも、ご出演していただく予定です。

翌日も、同様の形で、互いの番組でコラボレーションし、同時放送も行う予定です。

番組では災害時にも役立つラジオの役割、力についても語っていただきます。また、ラジオ第1で実施中の、能登半島地震メッセージ「#ラジオで声をとどけよう」に寄せられたメールもご紹介する予定です。能登半島地震では停電が相次ぐ中ラジオが大切な情報源になっているところもあると聞いています。今回、局を代表する看板番組が連携することで、能登半島地震で被災された方々に少しでも元気をお届けする放送にできればと思います。

そして、双方の番組リスナーに、互いの番組を知っていただき、二つの番組に共通する深夜放送の魅力を、改めて感じていただきたいと思います。

(以上)

### 3. “多様性”を意識した番組制作について

(山名メディア総局長)

NHK では、多様な視聴者のニーズに応えるコンテンツを提供できるよう、様々な視点やテーマを取り入れるなど、ダイバーシティの実現を推進しています。

この一環として、2021年4月から、イギリスの公共放送・BBC が立ち上げたプロジェクト「50:50 The Equality Project」に世界30か国、50を超える組織とともに参加しています。

このプロジェクトは、ドラマに出演する俳優、情報番組の進行役やスタジオゲスト、そして報道番組で取り上げる専門家などのジェンダーバランス等を意識し、多様な視点を取り入れた番組制作を行う取り組みです。

それぞれの番組の出演者に占める女性・男性の割合を計測し、可視化することで、制作現場の担当者が偏りの有無を認識することができ、コンテンツの多様性を高めることにつながると考えられています。

NHK は、このプロジェクトに日本のテレビ局として、唯一、参加し、取材・制作現場への理解を広げながら、多様な社会を映し出そうと取り組んできました。

プロジェクトへの参加からまもなく3年となる今、多くのコンテンツの中身、そして、その制作現場の意識においても多様性について変化が見られるようになりましたので、取り組みの経過をご報告します。

#### [報道資料はこちら](#)

NHKでは、当初、「大河ドラマ」、「連続テレビ小説」、「よるドラ」、「あさいち」、「ハートネットTV」、そして「ノーナレ」の6つの番組がプロジェクトに参加。出演者を男女別にカウントし、現状のジェンダーバランスを把握することから始めました。

NHK の局内におけるプロジェクトへの認知や理解が次第に広がり、基幹ニュースの「おはよう日本」や「ニュースウオッチ9」、「サタデーウオッチ 9」、そして「クローズアップ現代」、「日曜討論」、「ドキュメント 20min(とうえんてい・みにつつ)」も加わり、今年度はあわせて12の番組で多様性を意識したコンテンツ制作をしています。

プロジェクトへの参加番組数はこの3年間で倍となり、新年度からは地域放送局も含めてNHK 全体へ取り組みを広げていく予定です。

参加番組における男女比の変化は、報道資料の通りです。数字の上での変化は少しずつとなっていますが、

続けていくことで制作現場の多様性に対する意識を変えていき、コンテンツに反映させていく息の長い取り組みだと考えています。

そして、そうして生み出された彩り豊かなコンテンツを通して多様性ある社会を実現できるよう、公共放送としての役割を果たしていきます。

(以上)